

# 2021年6月特別賞

「いつも」を変えていく

**20年前、信州に  
プロスポーツチームはなかった**

ひとりだけの応援が重なり合い、ひとつの大きな熱となり、ピッチで走る人まで届く、子どもも大人もゲームのゆくよる目を輝かせ、胸を熱くたぎらせる——。現在は当たり前のように想像・体験できるこの光景は、東414の20年前の信州にはないものだった。サンプロアルウィン（長野県松本平野総合公園陸上競技場）が建設されたのは、2001年のこと。きちんと整備された専用スタジアム、収容できる大きなスタンド、それまでは断念せざるを得なかった試合の誘致など、さまざまなチャンスが呼び込める場としての誕生だった。

この出来事は、信州が新たな章へとつなげるひとつのきっかけになった。かつて1965年から活動していた松本山雅FCには、一流がプレーするにふさわしいその場所に応えるかのように、2012年に意願のプロ入り。その後の活躍は、信州に暮らす人々ならよく知るであろう。

松本山雅FCだけでなく、サンプロアルウィン竣工以降「地域」に広く応援され、地域と一体「誇」るスポーツチームがいくつも誕生し、活躍している。野球チームの信濃ケンローズ、バスケットボールの信州ブレイブブリアーズ、女子実業団バレーボールチームであるルートンネットスプリングブリアーズ、男子バレーボールチームであるTC長野トライデンツ、そして、ポアールズ長野フットサルクラブ、アルティスタ浅間、AC長野パルセイロに至ってはレディースも、この秋発足する日本女子プロサッカーリーグへの参入が決定している。

**今ある「いつも」は、誰かが  
熱い想いでつくり上げてきたもの**

さらに言うならば、未来が明るく開けたのは何も現役スポーツ選手のもそれだけではない。サンプロアルウィンは、「プロのスポーツ選手になる」という子どもたちの夢が信州で叶う仲間をつくり、プレーはしないけれどもスポーツを愛する人々の未来に「貢献」というアクティビティを届出した。かつてスタジアムの建設に尽力した人々の「スポーツが好き」「スタジアムをつくりたい」という想いが、信州の「いつも」を大きく変えたと言っている。

20年前の「いつも」と今の「いつも」は、ほんのり違う。このことは、暮らしたあらゆる場面においても言えることだ。さて、私たちがこれから創っていく未来の「いつも」は、いったいどれほど輝くものになるだろうか。今あらためて、コロナ禍にかき消されそうなき「好き」という想いをしっかりと胸に抱くこと。それこそが、僕ら「いつも」がワクワクに変わっていく後継なのだ。サンプロアルウィンに吹くアルファスの風を感じながら誓おうだ。

**SUNPRO ALWIN**  
サンプロアルウィンは多くの方々に愛され、20周年を迎えました

2021年6月26日付 15段  
株式会社サンプロ [制作 サンプロ/LOCAS]